

タイトル：瀬戸内海を守る

本文：

私は生まれも育ちも坊勢島だ。私たち島民にとって海はとても大切なモノだ。海は漁業、観光、社会、経済発展には不可欠だと思います。私たちは海洋資源を持続的に開発し、生態系を守っていくのが私たちの仕事ではないでしょうか。だが現状は、水質汚染や気候変動のせいで、環境悪化が生態系を歪めてしまっています。私が特に目にするのはあふれんばかりの大量のゴミだと思います。私は小さいころから浜の清掃活動をやってきましたが、ゴミの量が減ったと感じたことはありません。平成21年度の海岸漂着物の回収実績は播磨沿岸だけでも119トンだ。他にもまだ漂流しているゴミ、海底に堆積しているゴミの量をあわせたらとんでもない量になると思う。だが、そんなゴミの量だが、どこから生まれてくるのだろうか。そのゴミのほとんどが陸から運ばれてくるということが分かった。ポイ捨てや置き捨て、会場の漁具、水路か川の上流域から等。最後には海に流れ出していたのです。そのゴミの大半は最近特に問題になっているプラスチックのゴミだったのです。プラスチックは分解しないため、誰かが見つけ処理しなければ、ずっとそこに残ります。非常に軽くて風で移動しやすいために、崖の下の海岸などの拾えないところにいつてしまいます。そして、この海ゴミが生物にも影響を及ぼしてしまう。捨てられた網が魚などにひっかかり、それが岩にひっかかり動けなくなってしまうのです。他にも死んだ海鳥の胃の中からも餌と間違えて食べたプラスチックがたくさん見つかったり、魚の胃の中からも細かいプラスチックが発見されている。このままいくと数か月後には海はプラスチックゴミであふれてしまう。多くの人が認識している海洋ゴミだが、その実態はあまり知られていないようだ。2018年に日本財団が行った「海洋ゴミに関する意識調査」の結果を見ると、ゴミ削減のために主体的に動くべき対象としてメーカー、政府、自治体だけでなく、個人の取り組みも重要ということを知り、8割の方が認識していた。「海洋ゴミ」と聞いて思い浮かべるもので多くの方がペットボトルかポリ袋が多いと分かっていたものの、釣り具や、食品の包装袋や容器が多いと思っていた人は少なかった。最近ではレジ袋が有料になったおかげでマイバッグなどを持ち、レジ袋の使用量が減ったという情報をメディアなどで目にした。

海のプラスチックゴミは世界全体で問題視されていて、「持続可能な開発目標」でも「2025年までに、海洋ゴミや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する」という目標が掲げられています。

私たちにはできることはあると思います。まず大事なのが、海に関心を持ったり、海のことを知ることだと思います。ただ、ごみを回収するだけではなく時期を知ること大事だと思います。大雨は台風の後にはゴミが多く、海岸に流れ着くことと思います。その多い時期の直後に処理を行えば、きれいな期間が長くなり、私たちの負担も少なくなると思います。

もう一つは生活からでるゴミを減らすことです。生活ごみが減れば、当然海のごみも減ります。兵庫県が策定している「ひょうご循環社会ビジョン」に伴い、3Rの意識をもっと高めることが大事だと思います。

海のきれいさ、豊かさを「最高」の状態にするのはとても難しいことだと私は思います。私は「最適」さを目指すことが、豊かな海を作っていくのに大切だと思います。

瀬戸内海は私たちにとって、とても重要な環境です。海を守ることは私たちを守ることだと思います。2030年、いやそれ以上の将来を見据えて、私たちは日々の行動を過ごすことが大切です。